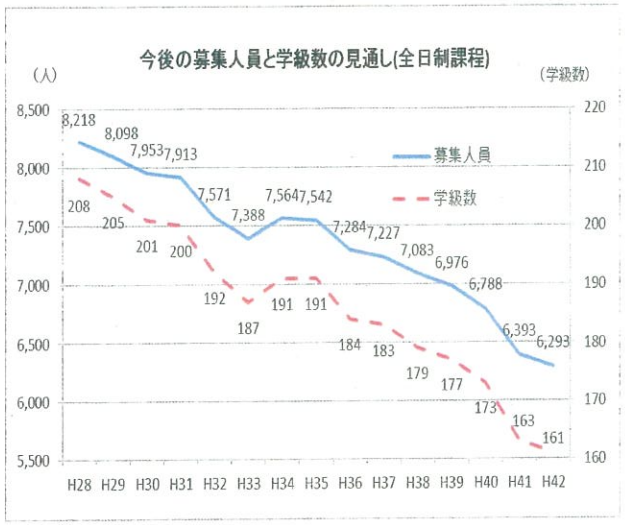
県立高等学校の配置及び規模の適正化

②Concept:「配置及び規模の適正化」と「実学教育の推進」



＜地域ごとの人口に対する公立高等学校全日制募集人員の割合＞

地域		学校数（校）	（うち普通科）（校）	募集人員（人）A	（うち普通科）（人）B	15歳人口（人）C	人口100人あたりの全日制募集人員（人）A／C*100	（うち普通科）（人）B／C*100
北部A	奈良市	8	7	2,330	1,720	3,458	67.4	49.7
北部B	生駒市・生駒郡・大和郡山市・天理市	7	7	2,040	1,520	3,680	55.4	41.3
中部	磯城郡・橿原市・桜井市	5	3	1,503	1,035	2,179	69.0	47.5
西部	北葛城郡・香芝市・葛城市・大和高田市	5	3	1,342	880	2,924	45.9	30.1
東部	宇陀市・宇陀郡・山辺郡	2	2	320	280	301	106.3	93.0
南部	高市郡・御所市・五條市・吉野郡	7	5	1,123	630	896	125.3	70.3
合計		34	27	8,658	6,065	13,438	64.4	45.1

○東部及び南部では、「人口＜募集人員」となっている。
○現在、全募集人員に対して、専門学科募集人員の率は約3割。実学教育の推進のため、専門学科を充実を図り、率の上昇（3割5分程度）を目指す。
○人口減の比率に合わせて募集人員を減ずるとすれば、10年後には、県全体で普通科募集人員約1,500名（全募集人員約1,700名）の減となる見込み。
※

※10年間の人口減少率は約2割
（13,438人→10,737人）
人口に対する募集人員は64.4%

＜適正化の基本的な考え方＞

- 地域を支える人材の育成という観点から、どの地域においても、生徒が希望や適性を基に、幅広い選択を行うことができるよう配置を検討する。
- 規模は、1学年当たり6～10学級とするが、近隣同種校がない場合、3～5学級での設置も考えられる。適正と考えられる規模が維持できない場合は、統合を視野に入れ、今後の在り方を検討する。
- 高度情報化やグローバル化など社会の変化を踏まえ、実学教育の推進等を図るため、各高等学校の特色化をさらに推進する。

県立高等学校の配置及び規模の適正化

③Strategy1「選択」：学校の統合、施設の複合化等

「学校の統合」
①3学級（120人）以上の入学人員を確保できない学校について、統合を検討
②普通科の定員が多い地域で、統合を検討
「施設の複合化等」
県立高校校地内に、知事部局施設を移設。グラウンド用地の一部転用等

［学校の統合］

・吉野高校と大淀高校を統合。両校地を使用し、（仮称）吉野総合高校として、総合学科を設置
・大宇陀高校と榛生昇陽高校を統合。両校地を使用し、（仮称）宇陀総合高校として、総合学科を設置
・奈良市内の普通科のうち、急増期に設置された普通科単独校3校（西の京、平城、登美ケ丘）を2校に再編

［施設の複合化等］

・現吉野高校校地：フォレストアカデミーの設置、林業関係県有施設の移転を検討
・現大宇陀高校校地：グラウンド用地の一部転用を検討

④Strategy2「集中」:実学教育の推進

グローバル化・高度情報化など社会の変化に対応

地元産業の活性化による地域創生を目指し、実学教育を飛躍的に充実

「選択」により削減した経費を、集中的に投下

・(仮称)吉野総合高校(吉野・大淀統合校)
森林管理・森林活用を総合的に学ぶ系列を設置
→ フォレストアカデミーと連携
地域の土木・建築の担い手育成のための系列を設置

・(仮称)宇陀総合高校(大宇陀・榛生昇陽統合校)
地域の福祉・保育の担い手育成のための系列を設置
地域振興の担い手育成のための系列を設置
→ うだアニマルパーク等と連携

・奈良市内の普通科再編2校
グローバル化に対応するためのコースを設置
地域創生に関するコースを充実
→ 県立大学地域創造学部と連携

・名称変更を検討する学校
奈良朱雀高校・磯城野高校を、それぞれ、奈良商工高校・磯城実業高校とし、実学教育を更に充実